

2025
4/18~

韓国・中国・台湾を結ぶ週40便運用開始!

神戸空港は国際空港へ!



神戸市提供

神戸空港 国際チャーター便の就航

好調な国内線と共に、国際空港として生まれ変わります!

2006年の開港から19年が経過する神戸空港が、関西エアポートの運営により2025年4月18日から国際チャーター便が運用開始されます。神戸と韓国・中国・台湾を結ぶ週40便から運用を開始し、今後の就航路線の拡大と5年後の2030年には国際定期便の運用に向けて、安全運行できるように取り組んでいきます。

神戸から西のエリアの中国四国からの航空需要を喚起しながら、各国から神戸に来られるインバウンド客が神戸を日本の玄関口として経済波及効果が発揮できるよう、インフラ整備を進めていきます。

国際チャーター便の運航ダイヤ(通常)

到着時刻 / 出発時刻	都市	運航日	航空会社
10:00 着 / 11:00 発	ソウル(仁川)	毎日	大韓航空
10:00 着 / 11:00 発	台北(桃園)	火・木・日	スターラックス航空
		月・金	エバー航空
12:30 着 / 13:30 発	台中	毎日	スターラックス航空
15:00 着 / 16:00 発	南京	毎日	吉祥航空
17:30 着 / 18:30 発	ソウル(仁川)	毎日	大韓航空
18:00 着 / 19:00 発	上海(浦東)	毎日	吉祥航空

※航空会社による関係国政府の許認可の取得等を前提

伊藤の想い

2025年は、国際都市神戸の新たな飛躍の年となります。空港の国際化により市内経済をさらに活発化させ、滞在型観光もすすめることで、経済波及効果を最大限に発揮できるように、神戸市の観光施策や交通インフラ整備などと共に取り組むことが重要です。

神戸の海沿いウォーターフロントエリアがにぎわいます!

1万人規模の“ジーライオンアリーナ神戸”が開業

バスケットボールチーム神戸ストークスの本拠地として、またコンサートをはじめとした大型イベントが行われるアリーナが完成し、4月に開業します。たくさんの人が三宮から海沿いのウォーターフロントエリアまでを行き来することになり、その経済波及効果も大きいです。

伊藤めぐみは、安全に通行できて楽しめる“ウォーカブルなまち神戸”を提案してきました。さらに工夫しながら、神戸のまちを訪れる方が楽しめるまちづくりを進めていきます。



“ジーライオンアリーナ神戸”が開業

神戸ウォーターフロントエリアの情報はこちら



令和7年度 神戸市予算のご紹介



神戸の子どもたち 子育てするなら神戸!神戸の子どもたちの笑顔のために!!

人への投資をすることで、神戸のまちはさらに豊かになります!

ライフステージに応じた切れ目のない支援をしています。保育所に入れない待機児童となることがないように、学童保育も心ゆたかに放課後や長期休みを過ごせるように、取り組んでいることが評価され、『共働き子育てしやすい街ランキング1位』に選ばれました! 来年度もさらに、病児保育を拡充、こべっこウェルカム定期便で定期的に育児用品を配達、学校給食費の負担軽減、学童保育の充実、不登校児童生徒への支援、コベカツ(中学校部活動の地域移行)に取り組みます。

『こべっこウェルカム定期便』は“神戸で生まれた赤ちゃんを祝福し、ともにすこやかな成長と笑顔を見守ります!”



共働き子育てしやすい街
ランキング全国1位
(日経BP調べ)



神戸市提供



未来への
まちづくり・人づくり
伊藤めぐみが議会で
提案!実現!!



神戸の山 次世代へ豊かな森を引き継ぐ、里山や森林の整備で資源の循環!

手を入れず荒れ放題の緑をよみがえらせる取り組みです!

昔はげ山だった六甲山も、植林をすることで緑豊かな山となりました。しかし森林や里山も、人の手を入れて余分な木や枝の伐採や下刈りなど整備しなければ、荒れ果ててしまいます。近年の豪雨にも山の土砂災害を防ぐためにも、森林整備は欠かすことが出来ません。

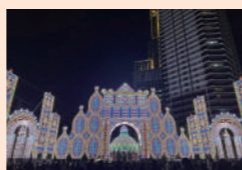
ただ伐採してしまうのではなく、木材として建築や家具への活用ができるよう、森林所有者と森林整備事業者、建築関係者、流通・加工事業者と連携した“こうべ森と木のプラットフォーム”を創り、森林整備に取り組んでいます。予算は国(林野庁)や兵庫県からの交付金も充てられています。



久元市長へ予算要望 2024/12/16



久元市長に重点項目2点を要望しました!



神戸ルミナリエ2025~震災犠牲者の方への鎮魂の灯りが灯りました 2025/1/23~2/2



震災から30年。1月17日の1.17希望の灯り



震災の時を記す大時計は、神戸市立丸山中学校西野分校(夜間中学校)の校舎にあり、発災時刻の午前5時46分で止まっています

毎年行っている久元市長への予算要望を、今年は阪神淡路大震災から30年の節目であり、災害の記憶や教訓が、発生から約30年で風化し始めるという「30年限界説」を打ち破るため、震災を知らない世代にも継承していくことを要望しました。市長も同じ意見でした。大切な震災30年を未来につなぐ取り組みを継続していきます!

伊藤の想い

2025年1月17日は震災から30年。決して忘れない!風化させない!後世に伝えるよう取り組み続けます!

こども家庭局

どの街より“子どもにやさしいまち神戸”をめざしています!

北区から市外の高校へ通う高校生にも対象拡大!
半額補助が実現しました

高校生等の通学定期券補助

《22億7,100万円》

◆市外高校: 1/2補助に拡充

(12,000円/月の基準額を撤廃、) (R7.4月~)

◆市内高校: 無料 (R6.9月~)

実現!

高校生通学定期券の拡充を求めました! 2024/2/27



北区の高校生たちの格差が広がる懸念から、昨年2月の予算委員会で「高校生等通学定期券補助」の拡充について質疑し、このたびの予算で反映、拡充されました!



伊藤の質疑

令和6年9月より【市内の高校に通学する生徒を対象に】「定期券代全額を補助」する制度が大幅に拡充されます。残念ながら【神戸市内の高校に通う生徒が対象】です。市域外に通学する場合、例えば北区から三田市、西宮市、三木市などの高校に通う場合は、今まで通り【月額1万2千円を超える額の半額を助成する制度】の適用となります。

北区在住の高校生にとっては、地理的条件から、距離が遠い市内の高校だけを選択肢にできない事情があります。神戸市と近接する、三田市へ毎年平均約220人、三木市へ約10人の生徒が進学しています。こうした現状をみると、隣接市の高校に通学する生徒に対しても、経済的支援の観点から、全額補助すべきではないでしょうか?

こども家庭局長の答弁では、「来年度の状況を見ながら検討する」とのことでしたが、神戸市に住む高校生たちに平等な施策をという北区のみならずの要望の声もあり、高校への通学定期券補助の半額助成へと、拡充が実現しました。



高校生の通学風景

伊藤の想い

子どもたちは、進学先を選ぶとき【学びたいことを学べる高校】を、【それぞれの学力に応じて】、【家庭の経済状況を考えながら】選んでいます。神戸市内の高校を選択してもらうことで、市内の高校を守るとともに、神戸市に住む子どもたちの中で不公平が起らないよう、これからも取り組みます!



こうべ未来会派の『令和7年度予算要望書』を神戸市長に手交

公園を利用しやすく

公園の駐車場を安全に配慮した上で、少年野球や様々な利用される方の利便が図られるように整備してください。

